
未定（仮）

檜高 黎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未定（仮）

【Nコード】

N0430Y

【作者名】

檜高 黎

【あらすじ】

青年は、現実の世界に違和感を感じていた。

唯一誇れるのは、剣の才においては他者を寄せ付けない程の実力があつたと言う事のみ。

無事、居合剣術を優勝し、帰路に帰る途中で不慮の事故に逢う。

気が付けば見覚えのない場所に倒れていた、そこにやって来た人物に捕らえられ、行き成り牢獄行きに。

落雷と共に現れたのは・・・

青年は古都京都に居た、居合の大会に出るために、3日間の競技を終え、大会は彼の優勝で幕を閉じた。競技後の取材を適当にすませ、会場をでる、外は紅葉が真赤に染め上がっていた。そんな季節の感動さえ、彼の瞳にはセピア色に染まっていた。

彼は、他者より秀でた部分はない、ある一つ分野においてのみ天武の才を持っていた。

剣の才においては、他者よりも圧倒的なまでに抜きに出ている。そんな彼には数ある悩みの中で、常に付きまとう悩みがあった。

彼は、いつも違和感を感じていた、今現実にある風景がまるで虚像であるが如く、空ろな世界。

どんなに優れた才をもって居たとしても、彼にとって現実味がない、まるでガランドウの世界。

「天才か・・・世間はそう騒ぐが俺にとっては大した事じゃないんだよな」

此処ではない何処かに、いつも行きたいと彼は思っていた。

会場を出てから、ホテルまでの帰路を静かに歩みだす、時計の時刻は6時過ぎを指し示していた。

薄暗くなった空、ビルと言う森に囲まれた雑踏の中を彼はひたすら歩く。

雑踏の中、突然、雷鳴と共に雨が降り出した、人々は足早に歩き出す。

彼だけは、そんな事気にも止めずのんびりとしたものだった。

「次の信号を渡ればホテルに着くな。夕飯には間に合いそうだな、食いつぱぐれるのは御免だ」

彼の頭の中には、夕飯の事しか頭になかったのである、雨に濡れようが余程の事が無い限り死ぬことはないと思っていたからだ、唯、彼でさえ想像もしない出来事が目の前に立ちふさがるはこの時思

つても見なかったのだ。
信号が変わり横断歩道を渡りだす・・・一步また一步と歩みを進める。

交差点の中央部分にさしかかった辺りだった、突然彼の頭上に今まで感じたことない衝撃が走った。

「ツガアンンンンン」

雑踏を行きかう周囲の人々は驚きを隠せない。

「おい！人が落雷に撃たれたぞ！俺は介護に回るから、誰か救急車を呼んでくれ！」

男性がおもむろに落雷が落ちた場所に歩みを進める、アスファルトが焼け焦げた匂いと煙でよく見えない、手で口にハンカチを当て、落雷の落下した場所へ何とかたどり着く。

「！！！！！」

「誰も居ない・・・確かに人が落雷に撃たれたのを見たのに！」
辺りは騒然とし、救急車も到着した様だ、警察により事情聴取も行われた、目撃証言によれば複数の人が確かに人に落雷が落ちたのを視認していた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0430y/>

未定（仮）

2011年10月30日04時32分発行